

## 有用遺伝資源の評価・利用

### 【研究概要】

東京都の育成品種をはじめ、広く有用植物や品種等を収集・評価し、有望品種の特性を把握すること。および、有用遺伝資源については新品種育成に活用することを目指して試験を実施した。その中で今年度は下記の6つの成果が得られた。

- (1) ブバルディア：第2期3品種の現地試作（2年目）での生育特性や市場性を確認した。第3期2品種の育成を完了して品種登録出願し、2023年7月に出願公表された。
- (2) ウド：未利用遺伝資源のウド根株の有効活用の基礎資料とするため、根株の成分分析を行った。
- (3) スイートコーンおよび秋冬ネギの有望品種を選定した。
- (4) 「大蔵ダイコン」の生育や外観的品質に及ぼす播種日および窒素施用量の影響を明らかにした。
- (5) ワケネギ「東京小町」およびイチゴ「おひさま東京ベリー」の原苗それぞれ400本、50株を東京都種苗会へ分譲した。
- (6) 露地ペチュニアおよび観賞用トウガラシの有望品種を選定した。